

事例（平成18年度伝達研修会資料より）

4回表、後攻チームから次のような通告があった。
 「DP・イチローが投手を兼務。投手のDEF0・松阪が左翼手に入る。」
 なお、七番打者・左翼手松井に関する通告はなかった。

5回裏、六番城島が右翼フライでアウトになった後、七番の打順でDEF0・松阪が打席に入り四球で出塁。続いては八番打者は左翼フライ、九番打者は死球となった。

※打順が乱れたので、以下のように打撃順を記載して、記帳を進めた。

DEF0・松阪はDP以外の打順で打撃を行ったため「DP違反」のメモを残したが、これでよいのか？

先攻		後攻	
シート	選手名	シート	選手名
8	A	2	城島
	六		六
5	B	7	松井
	七		七
2	C	DP1	イチロー
	八		八
9	D	4	井口
	九		九
4	E	17	松阪
	DEF0		DEF0
交代の記録		交代の記録	
	(DP) - (DP1)		
	(1) - (7)		
	(7)の通告なし		



ベンチ入りスコアラーの資格制度

スコアラーとして、ベンチに入る場合は公式記録員の資格が必要です。
 （選手・監督・コーチが兼務する場合を除く）

→ ベンチ入りスコアラーは公式記録員のワッペンを着用してください

平成19年度、公式記録員認定会の予定

平成19年11月23日（金） 会場：未定

平成20年 1月27日（日） 会場：未定

上記以外に臨時認定会がある場合もあります。

事例回答

1) DPがDEFO以外の守備を兼ねる場合

例えば、「DPが左翼手を兼ねる」と通告することで、左翼手は 打撃のみ を継続したことになる。

よって、この事例では、4回表の通告で、七番松井に関する通告（「打撃のみの選手となった」こと）が無くても、松井は打撃のみを継続したものとして扱う。

(7) - (D)

7 D

D : 打撃のみの選手

次に、DEFOはDP以外の打順では攻撃に参加できない。

従って、5回裏に、DEFO・松阪が七番打者で打撃を行ったことは、**DP違反** となる。

さらに、通告無く打席に入ったことは、**無通告違反**であり、アピールがあればペナルティが課せられる。

記帳は以下のとおり

先攻		4	5
シート	選手名		
8	A		
	六		
5	B		
	七		
2	C	8 I	
	八		
9	D	7E	
	九		
4	E		
	DEFO		

交代の記録	
(DP)-(DP1)	
(1)-(7)	
(7)-(D)	

後攻		4	5	6
シート	選手名			
2	城島		9 I	
	六			
7D	松井	無 通 告 違 反	松 阪 : (九) B	
	七			
DP1	イチロー		7 II	
	八			
4	井口		D	
	九			
17	松阪			
	DEFO			

交代の記録	

アピールがあれば、松阪は試合から除外され、失格選手となります。
(それまでのプレイはアピールの時期によって異なります)

